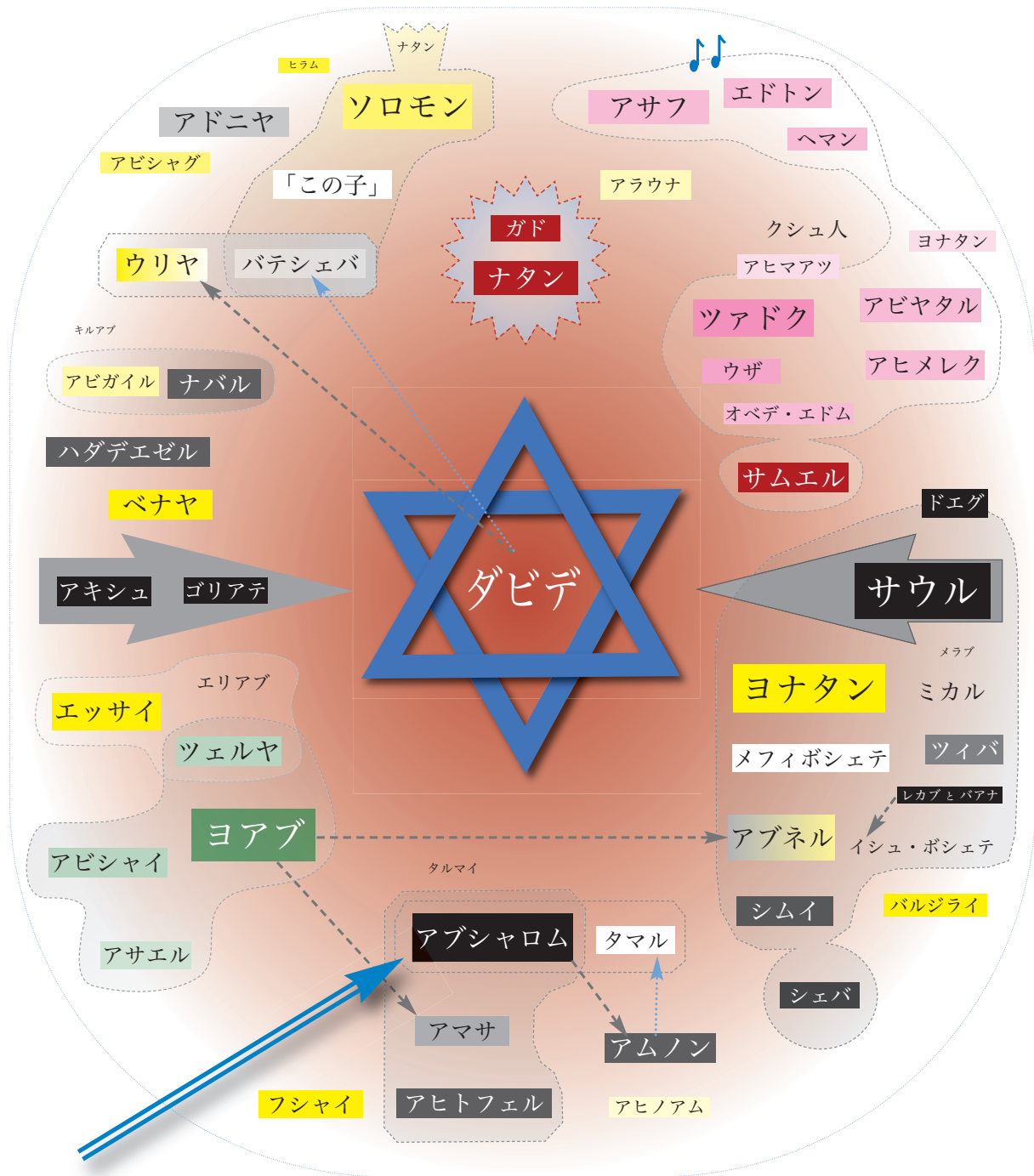


ダビデを



取り巻く人々

アブシャロムについて

1.) ダビデの3番目の息子であるアブシャロム(3:3)は、サムエル記の中で他の人々よりも、多く言及されています。1列王記で中心的な存在になるソロモンよりもです。サムエル記では、ダビデ、サウル、ヨナタン、ヨアブだけがアブシャロムより多く言及されているだけです。2サム13-19章のほとんどが、彼と彼の父に対する反抗について記述しています。

2.) 彼の美しい妹タマル(13:20-22)は義理の兄アムノンに犯され(13:1-14)さらに憎まれました(13:15-19)。アブシャロムは、その事に心を砕き、何とかしようと懸命になっていたように見えます。しかしアムノンを殺した事は(13:23-33)、王座を巡るライバルを、取り除いた事にもなりました(3:3)。もう一人の兄であるキルアブは系図に出ていないので、おそらく早い時期に亡くなったのでしょう。

3.) アブシャロムの母は、シリアのゲシュルの王の娘でした(3:3)。アブシャロムは、アムノンを殺した後、母の実家に逃げました(13:37)。アブシャロムの人生の哲学が、この異邦人との繋がりに影響していたと考えるのは妥当な事でしょう。彼の母とダビデとの結婚は、おそらく政治的な目的を持っていました。その息子が政治や権力に興味を持っていたとしても、驚く事ではありません。

4.) アブシャロムの反逆と、彼が父のそばめたちと寝た事は(16:21-22)、12:11-12でナタンに預言されていました。それは、ダビデのバテ・シェバとの姦淫、又ウリヤを殺した罪に対する、神様の裁きの一端でした。それでも、アブシャロムの罪は彼の罪。彼の責任です。

5.) 2サム14-15章の中に、政治的相互作用が多く見られます。実際、聖書のどの他の箇所よりも、この2つの章に多くそれが見られるのです。この箇所ほど、政治がどういうものであるかを学ぶのに最適なところは、ないでしょう。マタイ27-28章、ヨハネ18-19章も良い箇所ですが。

6.) なぜアブシャロムは、そんなに人気があったのでしょうか？簡単に答えると、13-15章で、彼は父親よりも政治的に活発に動いたからです。ダビデはさばきつかさとしての自分の務めをその時おろそかにしていました。それでアブシャロムが彼を批判する機会を与えてしまったのです(15:2-6)。13章でアムノンに対して断固たる態度を取らなかった事は、唯一の失敗ではなかったようです。自分自身も罪に陥った事で(11章)、ダビデは他人を裁くこともしませんでした。

7.) 15:1-6のアブシャロムの行動と、現代の政治家のそれとを比べてみるのは、興味深いことです。明らかに中心的な公けの場所で人々に声をかけ、それぞれのグループの人々の関心を引くように話し、キャンペーンを展開するのは、新しい事ではないようです(15:2-4)。容姿が良く、富んでいる事も人々の気を引くでしょう。また、敬虔そうに聞こえる嘘も、効果的である事を忘れないようにしましょう。

8.) アブシャロムは、始めは成功していました。13章から15章まで、すべての事が計画通りに進んでいくように見えます。しかし、17:14の悪い決断が、彼を敗北と死へと導くこととなりました(18:14-15)。人間的に言うなら、彼は誤ったアドバイスに従いました。しかし、このような結末に導かれたのは、主でした。

アブシャロムは...

2サム14:25-15:14を読んで下さい。時間があれば13-18章も読んで下さい。

合っていると思うものには○、違っているものには×、どちらでもないものには△をつけましょう。

() 巧みな政治家？

- () ハンサム(14:25)？
- () 勇敢、大胆(14:28-32)？
- () 富んでいた(13:23,14:30,15:1)？
- () 良い組織者(15:1,10-12)？
- () 野心家、権力を求めた(14:32,15:5-6)？
- () 忍耐深い、懸命に働いた(13:23,14:28,15:2-7)？
- () 人々を良く見た、人気者(15:2-6)？
- () ヨアブによく似ている(14:1-3)？

() 悪人、悪者？

- () 策略家(14:28-33,15:2-6)？
- () 不正直、偽善的(15:7-10)？
- () 純粋にユダヤ人ではない、不信者(3:3,13:37,14:32)？
- () ダビデに愛され、悼まれた(14:1,18:33-19:8)？
- () 主に裁かれた(14:27,18:14-15,18)？
- () 妹タマルには良くした(13:9-22)？
- () 傲慢(14:25-26,15:1,18:18)？

結論と適用

アブシャロムから学ぶ事

人気を求めないこと？

アブシャロムは、どんな人に似ているでしょう？ようやく高い地位を勝ち取ったのに、自分の罪のために公けに恥をさらし、短い政治生命を閉じた、現代に生きる巧妙な政治家のようです。2サム14-15章のアブシャロムから、効果的な政治的手法について多く学ぶ事ができるかもしれません。しかし、13-19章全体の要点はそれとは違います。彼の人生は、主を認めずに政治的に生きる事、世的な名声と成功を求める事の空しさを表わしています。

助言する者に気をつけること？

アブシャロムは、17章の誤った助言に従った事によって、18章の悲劇的な最期を迎えることになったようです。ですから、実際的な知恵と良い助言者が必要でした。政治家は、それに同感でしょう。

しかしながら、アブシャロムが本当に必要だったのは、敬虔な知恵とそれに従う意志でした。彼は15:7-8でダビデに、自分は主に仕えるという誓いをしたと言いましたが、それは偽りでした。私たちは、自分の心に注意しなければならぬ、という事をここから学べます(箴言4:23)。

より良い父になること？

ダビデが悪い父親だったので、アブシャロムは悪くなったのですか？ある部分で、そうとも言えるかもしれません。ダビデは、アブシャロムの母親と政略的結婚をするべきではなかったし、自分の子どもをおろそかにするべきではありませんでした。第1、第2サムエル記には、エリ、サムエル、サウル、ダビデ、と、親の失敗の事が多く書かれています。

そうは言いながらも、完全な親というものはありません。アブシャロムは自分の罪について、責任がありました。彼は個人的に神様に裁かれました。彼は父親の様々な失敗に関わらず、もっと良い息子でいることは可能でした。

主に期待すること？

最後に、アブシャロムの人生から学べる事は、必要以上に野心を持たない事、と誰かは言うかもしれません。もし彼が自分の持っているもので満足していたなら、父親とぶつかることもなかったはずだと。ある意味でそれは正しいかもしれません。しかし神様は、人々が常に受け身で、野心(大志)を持たないことを、喜ばれません。むしろ私たちは自分のやるべき事を、他の人や自分を喜ばせるためではなく、主に対してするように心からすべきです(コロ3:23)。

アブシャロムは、2サムエル記で一番の悪者でした。彼は間違った野心(目標と方法)を持っていました。彼がただ、自分自身ではなく、主に対して大志を持っていたのだったら！